

第5回 真砂地区学校適正配置地元代表協議会

1 日 時 平成20年11月12日(月) 16時00分～18時00分

2 場 所 美浜区役所 3-2会議室

3 出席者

(1) 委 員

*欠席委員：なし

(2) 事務局

山崎課長、古舘主幹、加茂主査、伊藤主査補、齊藤主事

(3) 傍聴者 7名

4 報告

真砂一丁目の状況について

5 議題

(1) 真砂地区の適正配置シミュレーションについて

(2) 次回開催日時・場所について

6 会議資料

(1) 資料1 学校の適正規模について

(2) 資料2 今年度推計による高洲・高浜地区の小・中学校の状況について

(3) 資料3 真砂地区の適正配置【参考シミュレーション】

(4) 資料4 真砂地区学区図

(4) 参考資料

ア 平成20年度千葉市の教育

イ 教育だよりちば 第71号

ウ 教育だよりちば 臨時号

7 議事の概要

(1) 真砂地区の適正配置シミュレーションについて

資料2「真砂地区の学校適正配置【参考シミュレーション】」、資料4「真砂地区学区図」及びをもとに事務局より説明があり、質疑応答を行った。

(2) 次回開催日時・場所

平成21年1月頃に開催することとし、具体的な日時等については、会長、副会長及び事務局に一任することとなった。

※調整により、次回は平成21年1月21日(水)午後4時～6時、真砂コミュニティセンター第2講習室で開催することとなった。

8 報告

真砂一丁目の状況について

〈事務局〉

平成20年10月9日付で、要望書が教育長宛に提出された。(全文朗読)

主な内容を確認すると、

- 1 真砂第五小学校の小規模校化については、改善の必要がある。
- 2 適正配置の話し合いをすれば、真砂地区の枠組みの中で協議したい。
- 3 真砂一丁目団地の建て替え計画が進行しているため、現時点での参加は見合わせ、計画の方向性が定まる平成21年の6月ころに、現状に変化がなければ、真砂地区の協議会への参加を希望する。
- 4 その間の本協議会における協議事項については、尊重する。

ということである。

〈土屋(敏)委員〉

稲毛海岸・高洲地区に該当する学区を教えてください。また、稲毛海岸・高洲地区からも同様の要望書が提出されているのか。

〈事務局〉

稲毛海岸・高洲地区に該当するのは、高洲第二中学校区と稲浜中学校区である。「実施方針」で稲毛海岸・高洲地区の話し合いの枠組みに入れた真砂一丁目から、要望書が提出されたということである。なお、この地区はまだ協議会が立ち上がっていないので、事務局が自治会単位等、個別に説明に出向いている。

〈土屋(敏)委員〉

稲毛海岸・高洲地区に地元代表協議会が立ち上がれば、そちらの協議会に加わるのか。来年6月まで待つということだが、どこかでどちらの協議会に加わるか、線引きをしないといけないのではないか。

〈事務局〉

確認するが、来年6月の時点で、現状に変化がなければ真砂地区の話し合いに参加し、その間のこちらの協議は尊重するということである。(現状に変化があるということは、真砂一丁目団地の建替え、または、東京歯科大の土地の具体的な開発計画が決まり、児童生徒数が増加することを示している。)

9 発言要旨

(1) 真砂地区の適正配置シミュレーションについて

〈事務局〉

参考シミュレーションについて <資料説明>

1 小学校

(1) 統合が行われない場合

(2) 統合シミュレーション

ア 参考統合シミュレーション1

・現在の育成委員会のまとまりで考えたものである。それぞれが適正な規模の学校になるだろう。

イ 参考統合シミュレーション2

・東西の学校同士の統合である。真砂第一小と真砂第二小の規模が大きいのので、偏りが出てしまい、真砂第三小と真砂第四小との統合校は、普通学級が13学級という状況が生まれると予想される。

・専科担当教員は13学級以上の学校に配置され、担当する教科は音楽がほとんどである。自分は、音楽の専科教員が配置されていない学校の経験もある。小規模校の先生方は大変努力して指導していると思うが、音楽や図画工作のような子どもたちの感性を育むことが重要な教科においては、専門の先生が指導する方が望ましいと考える。また、専科担当教員が授業を担当している間に、担任は子どもたちの指導に必要な準備ができることや事務処理時間を確保できるというメリットもある。また、ほかの協議会でも、「専科担当の先生がいるかないかで、学校の雰囲気は全く異なる。子どもたちにとってはかなりの影響力があるのではないか。」という意見も出ている。

・少人数加配教員が配置された場合、学級を分けて学級数を増やすこともできるし、学級はそのままにして授業内容によりT.T（ティーム・ティーチング）や少人数に分けた指導を行うこともできる。自分は少人数指導教員として指導した経験があるが、例えば、算数の授業ではT.Tを行い遅れがちな子どもの個別指導にあたり、場合によっては少人数集団に分けて指導したりしていた。また、理科や総合的な学習の時間では、子どもたちの興味・関心に応じた指導を行うことができた。また、学級を持たない教員がいることで、子どもたちも、直接担任に相談できないことを相談できる先生がいることになる。学年に多くの教員がいたほうが、多くの目で子どもたちを見ることができし、よりきめ細かな指導ができるようになる。他の協議会では、1人で3人の子どもたちを指導するよりも、2人で6人の子どもたちを指導する方がずっと楽し、目が行き届くという委員の経験も聞いている。

2 中学校

(1) 統合しない場合

(2) 統合シミュレーション

- ・この規模であれば、全教科において、免許外の教員が指導する状況はないだろう。また、5教科には複数の教員が配置できるだろう。
- ・中学校は教科担任制であるが、小規模校の場合、学校に配置される教員数が少ないので、教科によっては免許外の教員や非常勤の教員が担当せざるを得ない。9～10学級規模であれば、ほぼ全教科で免許外の教員が担当することはないだろう。また5教科（国社数理英）は、一つの教科に複数の教員がいると、その学校により適した教科指導をするために互いに研修することができる。学校外の同じ教科の教員との研修も行っているが、「今、この学校に最も適している指導方法」を探るには、学校内に同じ教科の教員が複数いることが望ましい。中学校の子どもたちは、心身ともに成長過程にある、微妙な年頃である。担任と副担任（副担任は2学級に1人程度）がいることが理想であるが、学級数が少ないとそのような配置は難しい。また、中学校では、行事等は生徒主体に活動することが多い。学級というまとまりで協力し他の学級と対抗し、互いに切磋琢磨できることが、子どもの成長にとっては有効であるが、学年に2学級しかない場合では、必ずどちらかが「優勝」でどちらかが「準優勝」となり、切磋琢磨はあまり望めないだろう。やはり学年に4学級程度あると対抗意識が芽生え、達成感や感動も生まれる。
- ・部活動については、現在は先生方の努力で多くの部活動を開設しているが、顧問を掛け持ち、なんとか開設しているという状況である。先生方は担当する部活動の経験がなくても、勉強して指導しているが、専門知識がなくても、部活動中に顧問が活動を見守るだけでも子どもたちのやる気が違う。掛け持ちではそれすらできない。学校規模を大きくして学校当たりの教員数を増やし、各部活に最低2人の顧問がつけるようになることが望ましい。出張等で一人がいなくなっても、もう一人の顧問がつくことができ、指導することができる。部活動の掛け持ちがなくなれば教員の負担も減り、その分、子どもたちへの指導を充実させることができるようになるだろう。
- ・小規模にもメリットはあり、先生方の努力によって適正規模の学校と同じような指導をしているが、学校では子どもたちの切磋琢磨だけでなく教員の切磋琢磨も必要であり、それが子どもたちのためにもなる。今回のシミュレーションは参考なので、他にも案があったら教えていただきたい。

〈島村委員〉

シミュレーションは平成26年度まで示してあるが、なぜここまでか教えていただきたい。平成26年度より前に統合することもあり得るのか。

〈事務局〉

推計は住民基本台帳を元に、現在0歳児が学校に入学するまでを算出しているの、今考える一番先の将来が平成26年度になる。推移を見ていただければわかると思うが、現在の推計では、大きな変化なく推移していくと考えられる。

〈阿部委員〉

真砂第一中から、本日の協議会ではかなり具体的なシミュレーションが示されると聞いてきたのだが、資料の説明だけで、具体的で現実的な統合案がないようである。統合について、教育委員会としての考えを聞けると思ったのだが、教育委員会はシミュレーションを提示するだけで、その後は我々で決定しろということなのか。シミュレーションの方向付けが先に聞きたい。

〈岩井委員〉

シミュレーションについての協議をする前に、教育委員会としての方向性があるのか、聞くべきだろう。

〈事務局〉

前回、「具体的なシミュレーションを提示してほしい」ということだったので、考えられる組み合わせを資料として提示したが、「教育委員会としての方向性を示す」とは言っていないと記憶している。統合の組み合わせについては、協議会で議論して決めていくものなので、資料はあくまでも「参考」である。

〈北澤委員〉

阿部委員は学校から、「教育委員会の考えが提示される」と聞いたそうであるが、先に協議会の内容について聞くというのはおかしな話である。統合の方向性は教育委員会が決めるのではなく、協議会で話し合っ決めていくものだと思うのだが。

〈事務局〉

学校へは、協議会で話し合われたことや次回の議題等については報告しているが、これから行われる協議会の具体的な内容を教えることはない。

〈土屋(敏)委員〉

「実施方針」で統合の方向性が示されており、今回はその方向性に基づきシミュレーションが出たということだろう。今後はこのシミュレーションをもとに、協議会が、どう決めていくかだろう。話し合いは前進していると思う。

〈土屋(明)委員〉

中学校より小学校の統合を先に進めた方がよいのではないか。小学校の統合については、中学校区、つまり現在の育成委員会のまとまりで分かれるのがよいのではないか。中学校は、その後検討していけばよいと思う。

〈阿部委員〉

統合については、教育委員会はこちらが必要だと考える資料を提示するだけで、方向性を決めることはなく、どうしていくかは、この協議会で話し合っただけで決めていくということでしょうか。

〈土屋(明)委員〉

ここまでの資料が提示されたのだから、今後は協議会で話し合っただけでいくということだろう。

〈阿部委員〉

保護者の間に噂話が広がってしまい、話が一人歩きしてしまっているようである。「統合の方向性については、教育委員会ではなく協議会が決める」ということを保護者に伝える必要があったので、確認した。

〈矢口委員〉

「参考統合シミュレーション2」で真砂第三小と真砂第四小の統合校には特別支援学級があるが、真砂第一小と真砂第二小の統合校には設置されないのだろうか。

〈事務局〉

特別支援学級の設置については、協議会でも要望書を出してもらい、検討していくことになる。

〈久保田委員〉

どうしても統合しなくてはならない切迫した状況ではないのではないか。現状を切羽詰ったものと考えて、統合していくということか。

〈事務局〉

「切羽詰った状況」というのは、どのような状況を言うのかにもよるが、統合を行うべきだと考える。統合して学校を活性化させるべきだろう。市としても、「実施方針」に示したように切迫感をもって取り組んでいる。

〈岩井委員〉

統合が行われた後の災害時の避難場所について不安がある。統合校の近くの住人は避難場所が近いが、統合校から遠くなってしまった住人は避難場所がなくなってしまうのではないかと。

〈矢口委員〉

そのことは、実際に具体的な統合校が決まってから話し合えばよいのではないかと。

〈富田委員〉

今は、協議しながら一つずつ積み上げていっているところである。今回は統合シミュレーションが示されたので、このことについて協議していきたい。一つずつ順番に話し合っただけでいかなないと、まとまらないだろう。

〈久保田委員〉

統合シミュレーションを示すのであれば、高層住宅等の計画も加味するべきだろう。資料にあるのは、単純に足し算をしただけのように見える。

〈事務局〉

シミュレーションは住民基本台帳を元に作成した。今はまだわからない将来の開発を見越したものを作成してほしいということだが、不確定な要素を入れると、逆に現実と乖離したものになってしまう可能性がある。例えば、美浜郵便局の隣の土地についても、計画の申請があれば、その時点で推計に入れていくが、現在具体的な計画は聞いていないので、推計には加味していない。

〈岩井委員〉

今日は何を話し合うのか。それぞれの考えはあると思うが、具体的に何を決める会議なのか、はっきりさせておきたい。シミュレーションの資料は、前もって送付されており、私たちは内容をわかっているはずである。

〈富田委員〉

今回は、具体的にどのような統合のパターンがあるかシミュレーションしたものを示してもらったので、それについて意見があれば協議していく。

〈岩井委員〉

「実施方針」の方向性に沿って進めていくのだろう。方向性を前提にし、どの学校とどの学校とを統合するか具体的に決めていくのではないのか。

〈富田委員〉

単にどこどこを統合するか、ということだけでなく、実際に統合したときに、どのような状況が生まれ、その状況でどのような教育を行えるかということを話し合うことが大事だろう。

〈岩井委員〉

具体的に統合する学校の組み合わせを決めないのか。

〈久保田委員〉

例えば、東京歯科大が移転し跡地に高層住宅が建設されれば、かなり影響があるだろう。協議会であまり早く結論を出すのは危険ではないか。

〈事務局〉

東京歯科大に照会をしたが、跡地の利用については慎重に進めているようだ。今の経済状況で高層住宅を建設しても、実際に入居があるのかという問題もあるだろう。このことについては、真砂一丁目でも非常に悩んでいる。「来年の6月の時点で現状に変化がなければ」というのは、開発状況についても言っている。大規模な住宅開発があれば、真砂第五小は規模が大きくなるだろう。しかし、現時点で計画のない高層住宅の建設を想定してシミュレーションに加味すると、将来的に現実との乖離が起きてしまうだろう。

〈土屋(敏)委員〉

小学校は統合して現在の4校から2校になるのがよいと思う。学年1学級よりも2学級の方がよいだろうし、先生方の切磋琢磨も必要だろう。私は、「参考統合シミュレーション1」がよいと思うが、真砂一丁目の結論が出る来年の6月までは決めなくてよいのではないか。

〈矢口委員〉

もう真砂第五小（真砂一丁目）は切り離して考えて協議し、真砂地区の方向性を決めた方がよいのではないか。

〈成田委員〉

現在の状況を考えると、来年の6月まで待ってられない。協議会の決定事項が絶対の決定ではないだろうし、東京歯科大や真砂第五小の動向を気にしていたら話し合いが先に進まない。今回のシミュレーションをもとに協議を進めていけばよいと思う。

〈土屋(敏)委員〉

真砂一丁目から要望書が提出され、(現状に変化がなければ、)真砂地区の協議会に入りたいという要望もあるのに、それを無視して話し合いを進めていくのか。結論の出る来年の6月まで待ってあげればよいのではないか。

〈事務局〉

真砂一丁目の方向性が定まるのは来年の6月頃であり、東京歯科大の跡地についても、状況を見極めていく必要はあると考えている。変化がない状況に備え、シミュレーションには、真砂第五小を加えたパターンも示してある。仮に真砂第五小が加わったとしても、統合した場合には大規模改修を行うので、教室数は心配ないだろう。

〈北澤委員〉

真砂一丁目が真砂地区の協議会に参加しないということは、つまり真砂第五小が適正規模になるということか。

〈事務局〉

団地は現在の規模よりも大きくして建て替えるので、計画通りに行われれば新しい入居者が入り、子どもたちの数が増え、真砂第五小や高洲第二中は適正規模になると予想される。

〈阿部委員〉

真砂第五小が真砂地区の協議会に加わりたいのであれば、こちらは受け入れることになっているが、現在こちらの協議会に参加せず、今後の状況によっては加わりたいというのは、ちょっと解せない。そのような考えであるのなら、真砂第五小は離して考えるべきではないか。来年の6月にどうなるかはわからないが、今、この協議会に参加することは無駄にはならないと思う。また、中学校の統合シミュレーションについてだが、中学校には育成区があり、それぞれの地区の伝統もあるので、それを壊してまで統合する必要はないのではないか。学校区をどのようなかという採決をいつ取るか等、協議の目安を決めたい。

〈土屋(明)委員〉

来年の6月まで待っていないで、決めていった方がよい。

〈高橋委員〉

シミュレーションを持ち帰り、会議等の会合で周知して意見を吸い上げたい。資料には統合した際のメリットが示されているが、保護者等から見たデメリットもあるかもしれないので、いろいろな意見を出してもらい、統合にあたりデメリットをどのように解消していけるかということをお話し合いたい。

〈土屋(敏)委員〉

「中学校は統合せず、小学校の統合を進めていく」という方向性を提案したい。中学校は現状のまま、2校あった方がよいと思う。

〈阿部委員〉

「小学校の統合は賛成だが、中学校の統合には反対」という意見もあるだろう。中学校は現状のままでよいのではないかと思う。各委員から意見を聞きたい。

〈黒川委員〉

真砂第二小では、保護者にアンケートを実施した。統合に「賛成」が70、「反対」が40、「どちらでもよい、わからない」が80だった。賛成意見としては、「部活動が多いほうがよい。」「友達が多いほうがよい。」というものが多かった。反対意見としては、「学区や子どもルームが変わることが心配である。」というものが多かった。今回のシミュレーションを、学校に持ち帰りどのように周知すればよいか、教えていただきたい。

〈北澤委員〉

いろいろ不安や心配はあるだろうが、「統合する」という方向性に沿って話し合っていきたいと考える。不安の解消は協議会に任せていただきたい。

〈島村委員〉

真砂第一小と真砂第四小でアンケートを実施した。統合についての基本的な部分の意見を吸い上げようと思い、統合について話し合う「地元代表協議会」があることを知らせ、まだ統合するかどうかは確定していないということを伝えて資料を提示した。保護者は不安が大きいようだった。正確な情報を保護者に伝えたいので、何点か確認したい。まず一つ目に、統合ありきではなく統合しない場合もあり得ると説明してよいのかということ。二つ目に、統合について保護者の賛成・反対の決はいつまでにとればよいのか、また、統合については協議会で決めるのか、それとも住民投票のように保護者や住民一人一人の決をとるのかということ。三つ目に、保護者の意見をどのように吸い上げればよいのかということ。保護者が直接、教育委員会に意見を言うことは筋が違うと思うので、代表である私に言うようになっているのだが、それで間違いはないか。最後に、確認というかお願いになるが、統合は誰のために行うのかということである。現在、真砂第一小は各学年2学級ずつで、1学級30人前後という規模であり、保護者はこの規模が適正だと思っている。したがって、なぜ適正配置を行わなければならないのか、疑問に思っている。もっと具体的に統合のメリットを示してほしい。

〈矢口委員〉

真砂第二中もアンケートを実施した結果があるのだが、どこに提出するかは、まだ考えていない。

〈北澤委員〉

保護者へのアンケートで統合に賛成か反対かを聞くことは、話が振り出しに戻ってしまうことにならないか。

〈事務局〉

統合ありきではないが、教育委員会としては、小規模校の課題は改善すべきと考えているので、真砂地区の子どもたちの教育環境をいかにすべきか、との視点で十分に協議をしていただきたい。自治会等の地域の代表の方は、ある程度自分の意見を言いやすいが、保護者の代表の方は、背負っている保護者の意見を反映させていかなければならないので、アンケートのような意見集約はあつてしかるべきだろう。委員の皆さんには、適正配置について理解はいただいていると思うが、保護者の方々になると、委員の方ほどの理解は難しいだろう。意見集約をしていただいた上で保護者が不安に思ったり、デメリットと感じたりすることを、市としてどのように解決していけるか等を示していきたい。場合によっては保護者の方々を対象とした説明会等をさせていただいて、直接話をする機会をいただきたいと思う。

〈中家委員〉

真砂第四小もアンケートを実施したが、新1年生の保護者は理解がないようである。事務局の方に、学校に説明に来ていただけると助かる。

〈事務局〉

先ほどの発言にもあったが、保護者の中には、「わからない」という意見も多いようなので、改めて説明に出向きたい。今回、シミュレーションを示したので、これをもとに保護者の意見を聞いていただきたい。適正配置は、子どもたちのために進めていくものである。保護者は自分の子どもの通学している学校の状況しかわからないと思うので、他の学校の状況も知っていただきたい。

〈富田委員〉

今回シミュレーションが提示されたので、学校の代表の方には、これを保護者に説明していただき、その意見を集約していかないといけないだろう。地道に進めていきたい。

〈事務局〉

一つ付け足したいのだが、真砂一丁目は決して無責任なのではない。このままでは本協議会の議論が進まないだろうから、現時点での態度をはっきりさせるために「要望書」を出したのであり、その中で「協議事項は尊重する」としている。また、この協議会の傍聴にも来ている。

〈阿部委員〉

無責任というわけではなく、傍聴者では意見が言えないので、協議会に参加したらよいのではないかと思う。

〈成田委員〉

方向の定まる来年の6月までは参加できないのではないかと。現状では意見も言いにくいだろう。

〈阿部委員〉

中学3年生の子どもの保護者には、「もう卒業するから統合してもしなくてもどちらでもよい。」という意見が多い。また、「統合校の場所によっては統合に反対」とする意見が多い。「統合には賛成だが、統合先によっては反対である」という意見が多くある。

〈富田委員〉

事務局に、保護者向けの説明会をしていただき、保護者の意見を踏まえた上で、協議したらどうだろうか。

〈島村委員〉

今、説明会を開催していただいても、資料にあるような説明を行うだけで具体的な結論を説明してもらえないのでは、あまり来ていただく意味がない。保護者が最も知りたいことは、「いつ、どうなるのか」ということで、せめて「いつまでに決まるのか」ということだけでも知りたいと思っている。結論を出す目処は大体2年ということなので、来年の12月までに決まるとしている保護者が多く、「協議会を（今日で）5回も開催しているのに、まだ何も決まらないのか」と言われる。今までいただいた資料の具体的な説明をされても、保護者が本当に知りたいことは知ることができないだろう。

〈矢口委員〉

保護者へは資料を見せ、それに対しての意見をもらい、それから教育委員会に説明会を開催していただいてもよいのではないかと。保護者への説明会は、ある程度決まってからの方がよいのではないかと。

〈事務局〉

確かに、ある程度協議会で方向性が決まってから説明に行った方が説明はしやすい。

〈矢口委員〉

保護者に資料等を提示する時間は必要である。

〈事務局〉

小学校については先に統合してはどうか、という意見があったが、他の委員の方々にも意見を聞きたい。

〈北澤委員〉

小学校と中学校は同時に統合しなくてもよいのか。

〈事務局〉

小学校の在学中に統合を経験した子どもが、中学校でもまた統合を経験するというのは、避けた方がよいと考えている。今回の資料はシミュレーションを示しており、より具体的な資料になっている。保護者等に説明する際に正確な情報を確認したいということがあれば、その時

はこちらからも情報を提供する。今回の資料を各団体に持ち帰って、出された意見をまた協議会に出していただきたい。

〈島村委員〉

保護者に資料を見てもらい、意見を集約し、それを協議会で発表するのであれば、各学校で足並みを揃えなければならないのではないか。

〈岩井委員〉

幕張総合高校の際は、意見を聞き時間がかかったが、結局統合された。

※幕張3校の高校の統合は県の行った事業であり、今回市の進めている学校適正配置事業とは無関係である。

〈事務局〉

次回協議会の開催日時だが、保護者への資料提示、意見交換、意見集約には時間がかかるだろう。どれくらいの時間が必要か、会長、副会長及び事務局で話し合い決めたいと思う。できれば来年の1月中に開催したい。

〈富田委員〉

確認するが、保護者の代表の委員の方には、資料を保護者に示していただき、意見を集約してもらい、教育委員会に説明会をしてほしい場合は、委員会に直接依頼するということがよいか。

〈阿部委員〉

次回の議題は何か。保護者には、「どの学校同士で統合するのがよいか、または統合はしないか」ということについて意見を聞いてくれればよいのか。

〈富田委員〉

シミュレーションについての意見を聞いてきてほしい。

〈岩井委員〉

今回は、参考統合シミュレーション1がよいのか、2がよいのかを協議して、どちらにするか決めてしまうのか。

〈土屋(敏)委員〉

まずは、どの学校とどの学校とを統合するのがよいかを話し合っていく、どの学校を残すのかは次の段階の話し合いになるのだろう。

〈北澤委員〉

まず、どの学校とどの学校を統合するか、次に、どの学校を残すのかを協議し、それから、跡地について話し合っていく。今回は、中学校を含め、どのような学校の配置が望ましいかということ、もう少し話し合っていく。